

海外投融資情報財団(JOI)は、我が国企業の海外直接投資の動向、海外におけるエネルギー・インフラ・資源開発、新興国の投資環境とビジネス機会等に関する情報を、当財団が主催するセミナー、調査研究、機関誌やウェブサイトを通して、会員企業および一般の皆さまに提供します。かかる活動を通して会員相互の情報の交流、ネットワーク拡大を図り、我が国企業の海外直接投資・国際ビジネスの促進に寄与します。

**設立** 平成3年12月16日(大蔵大臣認可):国際協力銀行(当時、日本輸出入銀行)・商社・製造業企業、公益事業会社、金融機関等170社の出捐により設立  
平成22年11月1日(一般財団法人移行)

**会員** 本邦主要メーカー、建設・エンジニアリング会社、商社、通信・電力・ガス会社、金融機関、内外弁護士事務所、会計事務所、コンサルティング会社、各国大使館等 約200先(平成30年3月現在)

## 会員制度(賛助会員)のご案内

当財団会員にご入会いただきますと、以下のサービスを受けることができます。

- (1) 当財団が主催、後援、協力するセミナー(年間60件程度)への無料招待
- (2) 会員と当財団によるセミナー共催
- (3) 機関誌「海外投融資」(隔月発行)の無料配布
- (4) 当財団ウェブサイト上、会員限定公開となっている、セミナー動画・配布資料、機関誌「海外投融資」記事、レポート、「国際金融機関便覧」等の閲覧
- (5) 受託調査(独自のネットワーク活用による情報収集を通じた報告書の作成)(有料)

## 拓さんの九段だより ● 元号と干支

わが国の元号(=年号)は、第35代皇極天皇の代、645年(西暦。以下同様)の乙巳の変<sup>(注1)</sup>の後、同年第36代孝徳天皇が即位し、人心一新を図る目的で制定された「大化」が最初ですが、公文書で元号の利用がすすんだのは、8世紀、大宝律令制定による律令制度が本格化し、日本という国号のもとで官僚機構が整備され始めた「大宝」(701~704年。元号としては第4番目)の時代からといわれます。「大化」から「平成」まで、いずれの元号もわが国独自のものですが、南北朝時代の北朝・南朝双方を含めると合計247の元号があります。天皇に比して元号の数が多いのは、一世一元が制度化される「明治」までは、一代の天皇のもとで複数回(最高は8回)の改元が行われたためです。

これまでの元号の制定・改元を(複数理由の場合もあるため)その主な理由別に数えると<sup>(注2)</sup>、全体のおよそ3分の1(82例)が代始(天皇の即位)によるものですが、最多は災異(天災、疫病、天体異変、戦乱など)で全体の約半分(120例)を占めています。そのほかとしては祥瑞(吉兆の発現)13例などがありますが、注目されるのは、革年(大変革の年)が30例もあることです。中国古代の思想である讖緯説では、干支が辛酉や甲子の年に変革が起ると予言するものです。特に辛酉は、日本書紀による第1  
(注1) 皇極天皇を母とする中大兄皇子(のちの天智天皇)が強大化した蘇我氏排除のために起こしたクーデター

干支(十干十二支)

1 甲子	2 己丑	3 丙寅	4 丁卯	5 戊辰	6 己巳
7 庚午	8 辛未	9 壬申	10 癸酉	11 甲戌	12 乙亥
13 丙子	14 丁丑	15 戊寅	16 己卯	17 庚辰	18 辛巳
19 壬午	20 癸未	21 甲申	22 乙酉	23 丙戌	24 丁亥
25 戊子	26 己丑	27 庚寅	28 辛卯	29 壬辰	30 癸巳
31 甲午	32 乙未	33 丙申	34 丁酉	35 戊戌	36 己亥
37 庚子	38 辛丑	39 壬寅	40 癸卯	41 甲辰	42 乙巳
43 丙午	44 丁未	45 戊申	46 己酉	47 庚戌	48 辛亥
49 壬子	50 癸丑	51 甲寅	52 乙卯	53 丙辰	54 丁巳
55 戊午	56 己未	57 庚申	58 辛酉	59 壬戌	60 癸亥

代神武天皇即位紀元の年(紀元前660年)であり、901~1861年の960年間、2度を除き毎60年周期に変革を防ぐための改元が行われる、とても重要な節目だったようです。

干支(=十干・十二支)は十干(甲・乙・丙・丁・戊・己・庚・辛・壬・癸)の10種類と、十二支(子・丑・寅・卯・辰・巳・午・未・申・酉・戌・亥)の12種類からなり、これらを組み合わせた60(=10と12の最小公倍数)を1周期とする数詞です<sup>(注3)</sup>(図)。今から3000年前の中国を起源とするもので(詳細不明)、わが国には6世紀頃、百濟経由で渡来したようです。現在、元号をまたがる年数の計算に西暦を用いますが、干支は、わが国で元号が使われる以前から、60年周期の循環暦に伴う制約はありますが、長期的な紀年法に利用されたことが日本書紀などからもわかります。また、干支は、アジア漢字文化圏で今日も共通に使われ続けており、元号はわが国以外では用いることがなくなっていますが、いわば現役の地域共通文化遺産的な価値あるものといえましょう。(調査部長 山本 拓)

(注2) 「普及版日本年号史大辞典」(雄山閣)など参照

(注3) 干支は、紀年の他、紀日、紀月、時刻、方位、角度を表すにも用いられてきた

## 海外投融資

Vol.27 No.2 (通巻158号)  
2018年3月28日発行

発行  
一般財団法人 海外投融資情報財団

発行人  
本間 学  
〒102-0073  
東京都千代田区九段北二丁目  
3番6号 九段北二丁目ビル  
TEL. 03-5210-3311(代)  
FAX. 03-5210-3456

制作協力  
(株)エディポック

\*本誌に掲載されている記事の内容や意見は、海外投融資情報財団の公式見解を示すものではありません。

● 禁 無断転載

All rights reserved. No part of this magazine may be reproduced in any form or in any means without written permission from the publisher.  
©Japan Institute for Overseas Investment Printed in Japan